



「する委員会」において「次なる」100周年を見据えて、支部の活性化や本部の体质強化を図ることにより、四極会の組織・財政基盤を強固にするとともに、会員の帰属意識を強める契機となる「100周年記念事業準備委員会」と連動することにより、100周年記念事業を成功に導く。

・これまでの取組の経過

① 「支部と本部の在り方等に関する委員会」

第1回	平成27年11月9日(月)
委員長に野々下俊昭理事が就任	
第2回	平成28年1月19日(火)
第3回	平成28年3月14日(月)
第4回	平成28年6月21日(火)
(H28.7.2(土))	第8回評議員会、支部長会議「中間報告」
第5回	平成28年9月12日(月)
第6回	平成28年11月8日(火)
第7回	平成29年2月14日(火)
(100周年記念事業準備委員会との合同会議)	
② 「100周年記念事業準備委員会」	
第1回	平成27年11月17日(火)
委員長に帆足三郎理事が就任	
第2回	平成28年2月1日(月)
第3回	平成28年3月11日(金)
第4回	平成28年6月13日(月)

(H28・7・1(土) 第9回評議員会、支部長会議「中間報告」)  
第5回 平成28年9月5日(月)  
第6回 平成28年11月28日(月)  
第7回 平成29年2月14日(火)  
(支部と本部の在り方等に関する委員会との合同会議)  
③平成29年7月1日(土)  
一般財団法人「四極会」第9回評議員会、支部長会議  
「支部と本部の在り方等に関する委員会」「100周年記念事業準備委員会」からの「答申」承認、決定  
④平成29年10月1日

を設置し、その具体的な取組について、検討

「記念式典小委員会」  
委員長 市原宏一教授

「記念事業小委員会」  
委員長 高見博之教授

「記念募金推進小委員会」  
委員長 玉井鉄之理事

「広報小委員会」  
委員長 帆足三郎理事

(この間、私をはじめ役員が手分けして45支部のうち25支部を訪問し、「100周年記念事業実行委員会」、「四つ」の小委員会の設置の目的、今後のスケジュール等について各支部長さんなど支部の関係者に説明。なお、残りの支部についても、今後訪問し、説明する予定)

⑤平成30年7月29日

一般財団法人「四極会」第10回評議員会、支部長会議において、「大分大学経済学部創立100周年記念事業実行計画」承認、決定

(2) いよいよ正念場を迎えるこれまでの取組

○募金活動、記念式典、記念事業、記念誌の発行等100周年記念事業の円滑な実施に向けて

・平成30年7月30日から2022

2年3月31日までの間  
「100周年記念事業実行委員会」の下、式典小委員会、記念事業小委員会、広報小委員会など、「四つ」の小委員会において、それぞれ責任を持つて「記念事業実行計画」に基づき、必要な事業について、漸次、準備し、実施する。

就中、募金の個人目標額1億円の必達については1人当たり1口10,000円（分割納付可）、募金期間は平成30年7月30日から2022年3月31日までとする。

・2022年6月25日（土）  
大分市iichiko総合文化センター「音の泉ホール」  
「経済学部創立100周年記念式典」挙行

(3) 「100周年の意義」を会員で共有

「はじめに」において言及したことおり、「次なる」100年に向けて、いま、改めて、経済学部「100周年の意義」が問われており、最も重要なことは、経済学部、「四極会」を問わず、関係教職員、「四極会」会員が、世代を超えてこれを共有することではないかと考えられる。

いまや、母校「高商、経專、  
経済学部」への想い、「四極会」  
の会員間の「絆」という、大い  
なる「遺産」を次の世代へ確実  
にバトンタッチすることが求め  
られている。

このため、本部、支部を問わ  
ず、「四極会」活動のあらゆる  
局面において、世代を超えて  
「四極会」会員に対し、「100  
周年の意義」について繰り返し  
周知する必要があると考えられ  
る。

称）の立ち上げ等について検討すべきである。

## （2）「四極会」の財政の健全化、

### 財政基盤の確立

会費収入を確保し、当該年度の支出は、当該年度の収入で賄うという基本的考え方を確立するとともに、この考え方を浸透させ、徹底する。

そのためには、会員1人当たり2,000円の会費の確実な納入を図る。

なお、この点に関しては、平成30年度から、入会金を従来の12,000円から20,000円に引き上げている。

### （3）「四極会」の会員に対するサービスの「量的」、「質的」な向上

高度情報社会、インターネット社会の本格的な到来に対応し、当面、会員名簿の管理、会報「四極」の掲載、その他「双方性」を持たせた運用などにより、ホームページの充実を図るとともに、今後さらにインターネット等の積極的な活用を図り、会員に対するサービスの「量的」、「質的」な向上を目指すものとする。

## おわりに

「同窓会、大学はどうなるのか

大分大学に6つある各学部・研究科の「同窓会」をめぐる状況は、若年層の「同窓会」離れと活動する会員の高齢化の進行という共通の問題に直面している。

一方で、平成27年4月1日からは、「大分大学同窓会連合会」が発足し、各学部・研究科の垣根を越えて、例えば「四極会」の各支部総会に他学部の同窓会の会員も参加するという新しい動きも出てきている。

翻って、「同窓会」の状況を云々するに先立つて、いま、大部分大学をめぐる状況についてみると、少子化の進行と、志願者数の減少、志願者の質、学力の確保が、喫緊の課題であり、「大学間・大競争」時代の真っただ中にあつて、国立大学の統廃合が、現実のものとなつてきていく。

「同窓会」の運営についても、大学の運営についても、いまや「改革」なき「同窓会」、「改革」なき大学に明日はない！と思いたることが重要であると考えられる。